



寺田寅彦年表

明治11（1878）年 1歳

11月28日、寺田利正、母亀の長男として生まれる。

明治16（1883）年 6歳

土佐郡江ノ口小学校へ入学。

明治24（1891）年 14歳

7月末、高知県立尋常中学校の入学試験に失敗。

明治25（1892）年 15歳

9月、高知県立尋常中学校へ入学、成績抜群によって二学年に編入される。

明治29（1896）年 19歳

7月、中学校を主席で卒業。熊本の第五高等学校へ無試験で入学が決まる。9月、熊本へ行き習学寮へ入る。その後、柏木義祝方に下宿。この年、4月に着任した夏目漱石に英語を学び、8月に着任した田丸卓郎に数学と物理学を学ぶ。

明治30（1897）年 20歳

7月24日、阪井重季の娘、夏子（15歳）と高知にて結婚。

明治31（1898）年 21歳

5月9日、田丸卓郎を下宿を訪ね、バイオリンの弾奏を聞き、自分でバイオリンを購入する。7月初め、漱石を訪ね、俳句の話聞く。その後、自分の作った俳句を漱石に添削してもらう。そのいくつかは、『ホトトギス』『日本新聞』などで掲載される。9月20日、特待生に選定される。

明治32（1899）年 22歳

7月、第五高等学校を卒業。9月、東京帝国大学理科大学物理学科へ入学。父の希望は工科であったが、高等学校在学中に理科志望の決心を固め父の同意を得る。8月28日に上京して尾張町の井上家に滞在中、9月5日に漱石の紹介で根岸に正岡子規を訪ねる。

「赤」、『ホトトギス』、5月。

「星」、『ホトトギス』、10月。

「祭」、『ホトトギス』、11月。

明治33（1900）年 23歳

12月26日、夏子が咯血。

「神」、『ホトトギス』、3月。

「車」、『ホトトギス』、9月。

「窮理日記」、『ホトトギス』、10月。

明治34（1901）年 24歳

5月26日、長女貞子が生まれる。

明治35（1902）年 25歳

11月15日、夏子死去（20歳）。

明治36（1903）年 26歳

7月、大学を卒業し、大学院に進む。実験物理学を研究することとなる。

明治37（1904）年 27歳

4月23日、数学物理学会で「ジェットによりて生ずる毛管波に就て」を発表。6月11日、同学会「熱海間歇泉の調査」（本多光太郎と共著）を発表。9月、東京帝国大学理科大学講師を嘱託される。10月15日、数学物理学会で「音叉の共鳴箱に就て」および「験潮器の記録に表はるる小波動に就て」（本多・吉田吉と共著）を発表。12月、高浜虚子の勧めで『ホトトギス』文章会に始めて出席。

明治38（1905）年 28歳

2月18日、数学物理学会で「音楽小引」を発表。2月25日、漱石宅での文章会に出席、高浜虚子が漱石の「幻の盾」を朗読。こうした影響を受けて小品文を書き始める。7月8日、数学物理学会で「磁場に於ける弾性係数の変化に就きて」（本多と共著）を発表。8月12日、郷里で浜口真澄の娘寛子（19歳）と結婚。11月18日、数学物理学会で「熱海間歇泉の変動」（本多と共著）を発表。12月3日、郷里から妻を迎え、小石川区原町に家を持つ。

「団栗」、『ホトトギス』、4月。

「竜舌蘭」、『ホトトギス』、6月。

「熱海間歇泉に就て」、『地学雑誌』、11月。

明治39（1906）年 29歳

2月17日、数学物理学会で「磁気に及ぼす歪力の効果と付磁に伴ふ弾性係数の変化との関係」（本多との共著）を発表。4月1日、震災予防調査会の委嘱により熱海へ出張し、3日帰京。4月21日、数学物理学会で「尺八に就て」を発表。

「嵐」、『ホトトギス』、10月。

明治40（1907）年 30歳

1月15日、長男東一が生まれる。4月6日、数学物理学会で「潮汐の副振動」（本多・石伝市郎と共著）を発表。6月、数学物理学会で“On Transverse Vibrations of Wooden Plates”を発表。10月26日、農商務省から農事試験場における種芸に関する試験を嘱託される。11月19日、東京地学協会例会で「潮汐の副振動」と題して講演する。この年、東京物理学校を委嘱される（翌年3月辞す）。

「森の絵」、『ホトトギス』、1月。

「船艇の振動に就て」、『東洋学芸雑誌』、1月。

「枯菊の影」、『ホトトギス』、2月。

「ラムプのいろいろ」、『東京朝日新聞』、7月。

「汽船の改良」、『東京朝日新聞』、8月。

「話の種」、『東京朝日新聞』、9月～1908年10月。

「無線電信の近状」、『東京朝日新聞』、9月。

「天然色写真新法」、『東京朝日新聞』、9月。

「やもり物語」、『ホトトギス』、10月。

「ムーア灯」、『東京朝日新聞』、10月。

「写真電送の新法」、『東京朝日新聞』、10月。

「宇宙の二大星流」、『東京朝日新聞』、12月。

明治41（1908）年 31歳

2月15日、数学物理学会で“Note on the Oscillation on Liquid in a Circular Vessel”を発表。6月6日、数学物理学会で「太鼓に就て」を発表。7月、大学院を卒業。10月1日、「尺八の音響学的研究」に関する論文により、理学博士の学位を授与される。6日、漱石宅で博士号授与の祝宴がもたれる。12月19日、数学物理学会で「気圧の勾配と地震の頻度との関係に就て」を発表。12月23日付で、宇宙物理学研究のため満二年間ドイツおよびイギリスへ留学を命ずとの辞令を受ける。

「障子の落書」、『ホトトギス』、1月。

「Kagami no nakano Kao」、『科学世界』、3月。

「伊太利人」、『ホトトギス』、4月。

「雪の話」、『東京朝日新聞』、4月。

「相撲と力学」、『東京朝日新聞』、5月。

「蚊帳の研究」、『東京朝日新聞』、8月。

「天河と星の数」、『東京朝日新聞』、8月。

「卵の形」、『東京朝日新聞』、8月。

「猫六題」、『東京朝日新聞』、9月。

「歳時記新註」、『東京朝日新聞』、9～11月。

「花物語」、『ホトトギス』、10月。

「大島火山の過去及び現在」、『地学雑誌』、10～11月。

談話「吾が中学校時代の勉強法」、『中学世界』、12月。

談話「極度の寒さ」、『東京朝日新聞』、12月。

「寒さの極点」、『土陽新聞』、12月。

明治42（1909）年 32歳

1月12日、東京帝国大学理科大学助教授に任命される。2月16日、次男正二が生まれる。農商務省から漁業基本調査に関する事項に委嘱される（水産の研究に係る最初）。3月25日、留学のため東京を出発。4月20日、従七位に叙せられる。5月6日、ベルリン着、直ちにベルリン大学に入学。8月18日、ベルリンを発って、ロシア、北欧への旅を向かう。12月、イタリアへ旅行。

「まじよりか皿」、『ホトトギス』、1月。

「『俳諧師』に就て」、『国民新聞』、2月。

「潮汐の副振動」、『地学雑誌』、4～5月。

明治43（1910）年 33歳

4月、震災予防調査会の委嘱によりベルリンからロンドンへ向かう。9月、スイスおよび南ドイツへ旅行。

「ヴェニスよりの消息」、『東京朝日新聞』、1月。

「羅馬通信」、『東京朝日新聞』、2月。

「通信」、『東京朝日新聞』、4月。

「漱石先生へ（上）（下）」、『東京朝日新聞』、10月。

明治44（1911）年 34歳

1月、外国遊学中欧米各国における地象物理学に関する事項調査を委嘱すとの辞令を受ける。2月19日、ゲッティンゲンからパリへ移る。4月24日、オックスフォードへ行く。6月6日、帰国。7月30日、正七位に叙せられる。10月19日、農商務省から水産講習所における海洋学に関する研究事項の嘱託を追加される。10月22日、柿岡に行き数日調査に従う。11月、物理学第三講座担任、物理学第二講座分担を命ぜられる。11月25日、日本天文学会例会において「地球内部の構造に就て」を講演。

「伯林の降誕祭と除夜（上）」、『東京朝日新聞』、1月。

「基督降誕祭と除夜（下）」、『東京朝日新聞』、2月。

「ノートルダム（上）（下）」、『東京朝日新聞』、3月。

「巴里より（上）（下）」、『東京朝日新聞』、5月。

「Ehagaki」、『RS』、7～12月。

「日本支那近海並びに北太平洋の海流」、『東洋学芸雑誌』、11月。

大正1（1912）年 35歳

2月17日、数学物理学会で“Secondary Undulations of Tides Caused by Cyclonic Storms”を発表。4

月24日、中央気象台の全国気象協議会において海洋学の講義を開く（5月1日終了）。5月12日、次女弥生生まれる。7月6日、数学物理学会で“On the Velocity of Ses-Waves”を発表。

「地球の年齢」、『学生』、1月。

「地球内部の構造に就て」、『天文月報』、2～3月。

「Kokoromoti」、『RS』、3月～1914年2月。

「Hyozan no Hanasi」、『RS』、6月。

「高層気象の研究（Ⅰ）」、『東洋学芸雑誌』、11月。

「高層気象の研究（Ⅱ）」、『学生』、11月。

大正2（1913）年 36歳

1月11日、ローマ字書きの著書“Umi no Buturigaku”を出版（前年4月の全国気象協議会において講義した講義録）。5月3日、数学物理学会で“On the Transmission of X-Rays, through Crystals”を発表。8月17日、父利正、急性腹膜炎により、高知の自宅で死去。享年77歳。10月10日、従六位に叙せられる。12月、水産講習所で「各種綱糸類の腐朽に就て」および「綱類腐敗に関する試験」（川合角也、布目孜、野崎知之共著）を発表。

『Umi no Buturigaku』、日本のローマ字社、1月。

「Syogwatu no Haiku」、『RS』、1月。

「物理学の応用に就て」、『理学界』、3月。

談話「学術的博物館の欠乏」、『趣味』、3月。

「地球の剛性に関する学説」、『現代之科学』、4月。

「航空に危険なる気流の状態」、『東洋学芸雑誌』、5月。

「Tengu ni natta Santaro no Hanasi」、『RS』、7月。

大正3（1914）年 37歳

1月23日、南硫黄島付近に噴火があり新島が現れ、その視察を委嘱される。6月6日、数学物理学会で“Deformation of Rock Salt Crystal”および“On the Molecular Structure of Common Alum”を発表。11月21日、数学物理学会で“Note on the Diurnal Variation of Barometric Pressure”を発表。

「山の重量とその圧力」、『東洋学芸雑誌』、1月。

「Umi no nakani hukidasita atarasii Sima」、『RS』、3月。

「Tabi no Omoide kara」、『RS』、4～8月。

「南硫黄島附近の海中に湧出せる新島に就て」、『東洋学芸雑誌』、4月。

「新島探検記」、『学生』、4月。

「Nawa ya Ito no kusaru koto ni tuite」、『RS』、5月。

「X線の廻折現象と物質の内部構造」、『現代之科学』、11月。

大正4（1915）年 38歳

2月27日、三女雪子が生まれる。3月、水産講習所で「網に対する水の抵抗の研究」を発表。4

月24日、東京地学協会総会で「アイソスタシーに就て」を講演。4月26日、気象台の測候所長会議の席で「海鳴に就て」を講演。6月5日、数学物理学会で“On the Noise of Breaking Sea-Waves”を発表。9月23、30日、水産講習所で漁業基本調査講習生のために「海流に関するベルクネス、サンドストレーム及びランド・ハンゼンの理論」を講演。10月1日、正六位に叙せられる。11月20日、数学物理学会“On the Distribution of the Cyclonic Precipitations”を発表。12月24日、気象台の談話会で「磯浜築港の砂の話」をする。12月30日、漱石を訪問、滝田樗蔭に会う。

講演「器械の手入れ取扱い方及び実験に関する注意事項」、『気象集誌』、1月。

翻訳「事実の選択」（ポアンカレ）、『東洋学芸雑誌』、2月。

『地球物理学』、文会堂書店、2月。

「Sora no Himitsu」、『RS』、3月。

「地中内部の構造」、『中学世界』、6～7月。

「アイソスタシーに就て」、『地学雑誌』、6～7月。

「Dimen no Agari-sagari」、『RS』、7月。

翻訳「偶然」（ポアンカレ）、『東洋学芸雑誌』、7月。

「方則に就て」、『理学界』、10月。

「海流に関するベルクネス、サンドストレーム及びヘランド・ハンゼンの理論」、『東京物理学校雑誌』、11月。

大正5（1916）年 39歳

1月15日、数学物理学会図書委員となる。3月8日、大学で理化学研究所設立委員会が開催され出席する。4月3日、数学物理学会で「地球物理に関する二三の調査」（実験物理三年生と共著）、「粗鬆面の反射に就て」および「撚糸の或性質」を発表。4月、海軍水産博覧会審査官を嘱託される。5月18日、震災予防調査会委員になる。6月3日、数学物理学会で“Apparent Periodicities of Accidental Phenomena”を発表。10月21日、数学物理学会で“On the Pulsatory Variations of Terrestrial Magnetism”を発表。11月18日、東京帝国大学理科大学教授に任命され、物理学第三講座担任を命ぜられる。12月9日、夏目漱石が死去。

「科学の目指すところと芸術の目指す処」、『科学と文芸』、1月。

「雨雪の荷電並びに雷雨電気の生因」、『東洋学芸雑誌』、1月。

「Tatumaki no Hanasi」、『RS』、1月。

「Taipuraita wo motomete yomeru Uta」、『RS』、1月。

「自然現象の予報」、『現代之科学』、3月。

「砂の話」、『学生』、3月。

「Kyokko no Hanasi」、『RS』、12月。

大正6（1917）年 40歳

1月、『漱石全集』の編集委員となる。3月、航空学調査委員を命ぜられる。4月1日、数学物理学会で“Some Problems in Meteorology”を発表。6月2日、同学会で“On Irregular Assemblage of Pulses

and Its Action on Resonators. I”を公表。7月1日、帝国学士院より「ラウエ映画の実験方法及其説明に関する研究」に対し恩賜賞を授与される。9月11日、高等官三等に叙せられる。10月19日、妻寛子が死去（31歳）。10月20日、従五位に叙せられる。12月15日、数学物理学会で“On the Temperature Distributions of a Pond”を公表。12月中旬頃より、津田青楓との交遊が始まり、以降、往来が重なる。

「「時」の観念と「エントロピー」並に「プロバビリティー」、『理学界』、1月。

「Natume Sensei」、『RS』、1月。

和歌「思ひ出るまゝ」、『渋柿』、2月。

「原子の構造に関する学説」、『東洋学芸雑誌』、4月。

和歌「瑞西雑詠」、『アララギ』、6月。

「Uta」、『RS』、6月。

「X-sen to Kessyotai」、『RS』、7月。

「物理学と感覚」、『東洋学芸雑誌』、11月。

和歌「思ひ出るまゝ」、『渋柿』、12月。

大正7（1918）年 41歳

2月21日、数学物理学会で特別講演として「原子構造説概観」を話す。4月1日、航空学調査委員を免ぜられ、航空研究所兼任を命ぜられる。4月2日、数学物理学会で“Instability of Liquid Film”および“Structure of Spark”を公表。7月6日、数学物理学会で“On the Frequency of Earthquake and Allied Phenomena”を公表。8月6日、酒井紳子（33歳）と結婚。8月9日、水産講習所の海洋調査担当官会議で「寒暖計に就て」を講演。11月16日、数学物理学会で“On the Effect of Topography on the Precipitation in the Japan”（with M. Isimoto and M. Imamura）を公表。

「Hikoki no Uta」、『RS』、2月。

「原子核に就て」、『東洋学芸雑誌』、3月。

「瀬戸内海の潮と潮流」、『ローマ字少年』、5月。

「物理学実験の教授に就て」、『理学界』、6月。

「津田青楓君の画と南画の芸術的価値」、『中央公論』、8月。

「海辺の観察 夏の小半日」、『ローマ字少年』、8月。

「Paris no Hizyobue」、『RS』、9月。

「太陽面の変動と地球上の天気」、『東洋学芸雑誌』、10月。

「Hazimete Masaoka San ni atta Toki」、『ホトトギス』、10月。

「研究的態度の養成」、『理科教育』、10月。

「蛙の鳴声」、『渋柿』、12月。

「戦争と気象学」、『理科教育』、12月。

「Taiseiyo no Tobikosi to Koso no Kaze」、『RS』、12月。

大正8（1919）年 42歳

2月15日、数学物理学会で“On the Analogy of the Temperature Variation of Nova Aquilae and the Frequency Variation of the After-Shocks of Earthquakes”を公表。4月2日、数学物理学会で“Meteorological Notes”および“On Radioactive Transformations”を公表。6月26日、水産講習所海洋調査担当官会議の席上で「深海水温と風並びに日照との関係」を講演。10月18日、“On the Sound of Aeroplane in Flight”および“A Note on Photophoresis”を公表。11月15日、国民美術協会で「雲の話」を講演。12月5日、大学で胃潰瘍のため吐血。直ちに大学病院に入院。

「科学上の骨董趣味と温故知新」、『理学界』、1月。

「太陽面の変化と地球上の天気」、『東洋学芸雑誌』、3月。

アンケート「名所名物 処自慢」、『渋柿』、3月。

和歌「湯殿」、『アララギ』、3月。

「Taiyo no Kokuten to Tikyū no Tenki」、『RS』、4月。

和歌「幼稚園」、『アララギ』、5月。

「Umi no Soko ni 22 mairu no Tonneru」、『RS』、6月。

「分子の会合に就て」、『東洋学芸雑誌』、7月。

談話「漱石先生梯草」、『渋柿』、8月。

大正9（1920）年 43歳

1月、メーテルリンクを読み、何か書いてみようかと思う。1月12日、大学辞職願いの手紙を長岡半太郎に書く。3月31日、高等官二等に叙せられる。4月10日、油絵スケッチ用具を求め、以後盛んに油絵を描く。6月10日、正五位に叙せられる。11月1日、『中央公論』に「小さな出来事」が吉村冬彦の名で掲載される。これから随筆にはこの名を多く使うようになる。11月12日、「物理学序説」の原稿を起こす。11月25日、学術研究会議会員になる。

「病院の夜明けの物音」、『渋柿』、3月。

「Tikyū no Rekisi」、『RS』、4月。

「病室の花」、『アララギ』、5月。

「電車と風呂」、『新小説』、5月。

「無題」、『渋柿』、5月～1930年11月。

「丸善と三越」、『中央公論』、6月。

「旅日記から」、『渋柿』、6月～1921年4月。

講演「雲の話」、『美術月報』、8月。

「自画像」、『中央公論』、9月。

「小さな出来事」、『中央公論』、11月。

「鸚鵡のイズム」、『改造』、11月。

「帝展を見ざるの記」、『中央美術』、11月。

「Ame no Oto」、『RS』、12月。

大正10（1921）年 44歳

7月11日、航空研究所所員に補せられる。11月7日、病後初めて出校し、気象学演習を開始。

「芝刈」、『中央公論』、1月。

「球根」、『改造』、1月。

「春寒」、『渋柿』、1月。

「文学の中の科学的要素」、『電気と文芸』、1月。

「『左千夫歌集』を読む」、『アララギ』、1月。

「浅草紙」、『東京日日新聞』、1月。

「Hito wo kuu Uma」、『RS』、1月。

「Hikoki to Tenki」、『RS』、2月。

「凍雨と雨氷—稀有な降水の種類」、『東京朝日新聞』、2月。

「漫画と科学」、『電気と文芸』、3月。

「『氷魚』を読みて」、『アララギ』、3月。

「Kaze no Doryoku no Riyo」、『RS』、3月。

「厄年とetc.」、『中央公論』、4月。

「春六題」、『新文学』、4月。

「海底に於ける土砂の移動に就て」、『東洋学芸雑誌』、4月。

「Boin no Bunseki」、『RS』、4月。

「蓑虫と蜘蛛」、『電気と文芸』、5月。

「Ame to Konoha」、『RS』、6月。

「蜂を団子をこしらえる話」、『解放』、7月。

「田園雑感」、『中央公論』、7月。

「アインシュタインの教育観」、『科学知識』、7月。

「『地懐』を読みて」、『霸王樹』、7月。

「Hosi no Okisa wo hakaru Michelson no Hoho」、『RS』、7月。

「懶是真」、『中央美術』、7月。

「Dimen no Myakudo to Tunami」、『RS』、8月。

「アインシュタイン」、『改造』、10月。

「『あらたま』雑感」、『アララギ』、10月。

「Tuki no Hyomen no Ana to Bakudan no Ato」、『RS』、10月。

談話「私のは昼寝文学です」、『読売新聞』、10月。

「鼠と猫」、『思想』、11月。

「Kandankei to Ondo no Kankaku」、『RS』、11月。

「気象雑俎」、『東洋学芸雑誌』、11月。

「或る日の経験」、『明星』、12月。

「Midu no naka de tuyoi Oto wo dasu Sikake」、『RS』、12月。

1月18日、水産講習所の海洋調査担当官会議で「海水のアルカリニチー調査方法」を講演。3月11日、数学物理学会で“On Resultants of Wind”を発表。3月23日、測地学委員会委員になる。5月6日、数学物理学会で“Solar Activity and Atmospheric Pressure”を発表。6月3日、同会で“On Periodic Fluctuations of Convection Currents — With a Hint on the Origin of Sun-Spots Cycle”を発表。8月4日、航空船に関する調査を海軍省から囑託される。9月16日、数学物理学会で“On Some Remarkable Relations between the Yearly Frequency of Earthquakes and Solar Activities”および“On the Influence of the Distribution of the Solar Activities upon Terrestrial Atmosphere”を発表。10月16日、物理学第三講座担任を命ぜられる。11月17日、アインシュタインが来朝。その講義を聞き、歓迎会に列す。11月24日、航空用語調査委員を命ぜられる。

「写生紀行」、『中央公論』、1月。

「笑」、『思想』、1月。

「案内者」、『改造』、1月。

「断水の日」、『大阪朝日新聞』、1月、『東京朝日新聞』、1月。

「Hana no Ana」、『RS』、1月。

「Tetu no Harigane ya Bo no Kensa」、『RS』、2月。

「夢」、『明星』、3月。

「歌の口調」、『朝の光』、3月。

「Denziki-sayo de Hune ya Hiroki no Mitisirube」、『RS』、3月。

「マルコポロから」、『解放』、4月。

「蓄音機」、『東京朝日新聞』、4月。

「4000-pondo no Bakudan」、『RS』、4月。

「亮の追憶」、『明星』、5月。

「一つの思考実験」、『中央公論』、5月。

「茶碗の湯」、『赤い鳥』、5月。

「塵埃と光」、『科学知識』、5月。

「Tenki ga Ningen no Kokoro ya Karada ni oyobosu Eikyo」、『RS』、5月。

「気象雑俎（二）」、『学芸』、5月。

「Hikoki to Sokuryo」、『RS』、6月。

「Daen no Utukusisa」、『週刊朝日』、6月。

「赤彦童謡集諸消息」、『アララギ』、7月。

「断片」、『明星』、8月。

「神田を散歩して」、『解放』、8月。

「海陸風と夕凧」、『科学知識』、8月。

「波の音」、『学芸』、8月。

「Todai no Musen-densin」、『RS』、8月。

「秋の歌」、『渋柿』、9月。

「電車の混雑に就て」、『思想』、9月。

「雑記」、『中央公論』、9月。

「Disin no Yoho wa dekiru ka?」、『RS』、9月。

「1-kin 500 En no Sato」、『RS』、10月。

「異郷」、『明星』、11月。

アンケート「名士の書架」、『解放』、11月。

「相対性原理側面観」、『改造』、12月。

「Dokugasu no Riyo」、『RS』、12月。

談話「夏目先生の自然観」、『東京朝日新聞』、12月。

大正12（1923）年 46歳

1月26日、水産講習所の海洋調査担当官会議で「水温比重に関する二三の事項」を講演。2月17日、数学物理学会で“On Gustiness of Winds”を発表。4月2日、数学物理学会で“Meteorological Note. Part I and II”を発表。9月1日、二科展覧会を津田青楓と共に見物中、大地震に遭う。11月2日、土木学会帝都復興委員会で「旋風に就て」を講演。12月3日、航空学談話会で「九月一日二日に起りたる旋風に就て」を話す。

『冬彦集』、岩波書店、1月。

「雑記」、『中央公論』、1月。

「子猫」、『女性』、1月。

「浮世絵の曲線」、『解放』、1月。

「Tairiku to Taiyo no Naritai」、『RS』、1月。

「寺田寅彦氏座談」、『ホトトギス』、1月。

談話「壮嚴なる雲の美観」、『都新聞』、1月。

『藪柑子集』、岩波書店、2月。

「Ongakuka no Sikaku wo sikensuru Kikai」、『RS』、2月。

「宇津野さんの歌」、『朝の光』、3月。

「Hatudoki nasino Hikoki」、『RS』、4月。

「言語と道具」、『理学界』、5月。

講演「ウエゲナーの大陸移動説」、『理学界』、7月。

「日本文学の諸断片」、『渋柿』、7月～1925年6月。

「或る幻想曲の序」、『明星』、8月。

「廿四年前」、『思想』、8月。

「Zihen no Kioku」、『RS』、10月。

「鑢屑」、『週刊朝日』、10月。

「Yosioka Kun no Omoide」、『RS』、12月。

大正13（1924）年 47歳

2月16日、数学物理学で「九月一日二日の旋風に就て」を発表。4月1日、同会で“Explosion of

Hydrogen Mixture” (with K. Yumoto and M. Godai) を、3日、“Meteorological Notes”を公表。5月17日、地質学会で「大正十二年九月一日の地震に就て」を講演。5月、理化学研究所の研究者になる。9月1日、消防茶話会で「火災と気象との関係」を講演。11月、海軍からSS航空船爆発の原因調査を委嘱され、その研究に着手。11月30日、長女貞子が森博通へ嫁す。

「石油ラムプ」、『文化生活の基礎』、1月。

「Kwanto-tiho no Tikei to kondo no Disin」、『RS』、1月。

「伊吹山の句について」、『潮音』、2月。

「解かれた象」、『女性改造』、2月。

「雑記」、『中央公論』、4月。

アンケート「最近の読書感」、『帝国大学新聞』、4月。

「地震雑感」、『大正大震災火誌』、改造社、5月。

「鑪屑」、『週刊朝日』、7月。

「大正十二年九月一日の地震に就て」、『地学雑誌』、7月。

「Tikyu no Harawata」、『RS』、7月。

アンケート「旅・読書」、『東京朝日新聞』、8月。

「流言蜚語」、『東京日日新聞』、9月。

「二科会展覧会雑感」、『明星』、10月。

「Kuki no nakano Kwaibutu」、『RS』、10月。

アンケート「探してあるもの」、『東京朝日新聞』、10月。

講演「火災と気象との関係」、『日本消防新聞』、10月。

「池」、『東京帝国大学理学部会誌』、11月。

「Hashigaki」、『Tao Tanpensyu』、日本のローマ字社、11月。

大正14（1912）年 48歳

2月21日、航空船爆発査問委員にスパーク実験を見せる。3月、SS航空船爆発の原因に関する研究成果を海軍へ報告。4月3日、数学物理学会で“Report on Some Experiments Made by Students”を公表。5月2日、数学で「燃焼の伝播に就て」を公表。5月25日、航空学談話会で「アルミニウム塗料を施した布片の電氣的性質」を公表。6月27日、帝国学士院会員（地球物理学部員）になる。8月1日、従四位に叙せられる。11月14日、震災予防評議会評議員になる。12月12日、帝国学士院で“Mechanism of Lightning Discharge” (with U. Nakaya and K. Yumoto) を公表。12月19日、数学物理学会で“On Fluid Motions” (with K. Hattori) を公表。12月24日、勲三等に叙せられ瑞宝章を授けられる。

「中村彝氏の追憶」、『木星』、6月。

「TORSO」、『渋柿』、8月。

「TORSO」、『潮音』、8月。

「新三つ物」、『渋柿』、9月。

「銀座より」、『渋柿』、9月。

「二科会其他」、『明星』、10月。

「歌仙」、『渋柿』、10月～1936年11月。

「路傍の草」、『中央公論』、11月。

昭和1（1926）年 49歳

1月20日、東京帝国大学地震研究所所員に補せられる。理学部教授はそのまま。2月8日、航空学談話会で「流体の運動に関する二三の実験（第一報）」を発表。3月13日、数学物理学会で“On the Effects of Winds on Sea-Level”（with S. Yamaguti）を発表。4月3日、数学物理学会で“Reports on Some Experiments on Motions of Fluid, Made by Students”を発表。5月20日、長女森貞子に男子博芳が誕生。6月6日、母亀が本郷区曙町の家で死去（84歳）。6月12日、帝国学士院で“A Preliminary Note on the Form and Structure of Long Spark”（with U. Nakaya）および“Propagation of Combustion in Gaseous Mixture”（with K. Yumoto）を発表。6月22日、地震研究所談話会で「砂の崩れ方の話」および「不規則な衝撃に依る振動体の振動」を発表。11月1日、航空学談話会で「水の運動に関する実験」（服部邦男と共著）を発表。12月21日、地震研究所談話会で「弾性波の実験（第一報）」（坪井忠二と共著）を発表。

談話「火災論の論議に就て」、『日本消防新聞』、1月。

「TRSO」、『潮音』、1～5月。

「新三つ物」、『渋柿』、2～6月。

「俳諧六つ物」、『渋柿』、2月。

「俳諧 二枚折」、『渋柿』、7月。

「俳諧 二つ折」、『渋柿』、9月。

「書簡」、『アララギ』、10月。

「俳諧 二枚屏風」、『渋柿』、12月。

昭和2（1927）年 50歳

3月10日、前年12月に辞職希望を申し出ていたが、理学部勤務を免ぜられ、地震研究所所員専任となる。3月12日、帝国学士院で“On Thermoelectric and Electrothermal Properties of Bismuth Single Crystal”（with T. Tsutsui）を発表。3月15日、地震研究所談話会で「砂の崩れ方の話」（宮部直巳と共著）を発表。4月2日、数学物理学会で“Some Experiments on Periodic Form of Convection Currents”（with Second Year Students）を発表。4月12日、帝国学士院で“On Thermoelectric Phenomena of Thin Metallic Films”（with S. Tanaka and S. Kusaba）を発表。4月19日、地震研究所談話会で「地球の激震帯と其長周期移動」（宮部と共著）を発表。5月11日、帝国学士院“On a Long Period Fluctuation in Latitude of the the Macroseismic Zone of the Earth”（with N. Miyabe）を発表。5月17日、地震研究所談話会で「弾性波の実験（第二報）」（坪井と共著）および「日本海沿岸の島列に就て」を発表。5月30日、航空学談話会で「風の短周期変化に就て」（玉井光男と共著）。6月21日、地震研究談話会で「沿岸島列に就て」および「島弧の生成に関する実験」（宮部と共著）を発表。7月12日、帝国学士院で“On the Vortical Motion of Fluid Produced by Rotating Body”（with K. Hattori）を発表。9月20日、地震研究所談話会で「土佐南海岸の汀線変化に就て」（岸上冬彦・

小平孝雄と共著) および「統計地震学に於けるSchwankungの理論の応用」(岸上・河角広と共著) を発表。10月12日、帝国学士院で“Formation of Periodic Columnar Vortices by Convection”および“Residual Thermoelectric Phenomena of Apparently Homogeneous Wire”(with T. Tsutsui and M. Tamano) を発表。10月14日、水産講習所の海洋調査担当官会議で「大気の運動に就て」を講演。10月18日、地震研究所談話会で「弾性波の実験(第三報)」(坪井と共著)、「微動遮断に関する堀の効果」(坪井と共著) および「砂の崩壊に就て」(宮部と共著) を発表。11月15日、地震研究所談話会で「本邦に於ける近年の山崩の分布」を発表。12月12日、帝国学士院で“On the Mechanism of Formation of Step-Faults in Sand Layers—A Possible Analogy with Slip Bands in Deformed Metallic Crystals”(with N. Miyabe) を発表。この年の秋頃よりアイヌ語、マレイ語などの辞典から土佐の地名の語源を捜すことを試みる。

「断片」、『明星』、1月。

「備忘録」、『思想』、9月。

「Odisin no Okorikata ni kwansuru hitotuno Syukisei」、『RS』、9月。

「松島より」、『渋柿』、9月。

「怪異考」、『思想』、11月。

「昭和二年の二科会と美術院」、『靈山美術』、11月。

「人の言葉—自分の言葉」、『東京帝国大学理学部会誌』、12月。

昭和3(1928)年 51歳

1月17日、地震研究所談話会で「関東地震に関係せる地殻の移動に就て」(宮部と共著) を発表。2月12日、帝国学士院で“On the Vertical Displacement of the Sea Bottom in Sagami Bay Discovered after the Great Kwanto Earthquake of 1923”, “On the Horizontal Displacements of the Primary Trigonometrical Points Discovered after the Kwanto Earthquake”(with N. Miyabe) および“On the Geophysical Significance of the Crustal Movement Found after the Great Earthquake of 1923”を発表。3月12日、帝国学士院で“On an Irregular Mode of Spherical Propagation of Flame”(with K. Yumoto) を発表。3月20日、地震研究所談話会で「丹後地震に於ける地殻変動に就て」(宮部と共著) および「関東地震と海面」(山口生知と共著) を発表。3月21日、測地学委員会の用件で酒田へ向かう。4月12日、帝国学士院で“On Gustiness of Winds”を発表。4月23日、航空学談話会で「Convectionに依る渦流」を発表。4月24日、地震研究所談話会で「丹後地震と地殻変動」(宮部との共著) を発表。5月12日、帝国学士院で“Effect of an Irregular Sucession of Impulses upon a Simple Vibrating System—Its Bearing upon Serismometry”(with U. Nakaya), “Relation between Horizontal Deformation and Postseismic Vertical Displacement of Earth Crust which Accompanied the Tango Earthquake”(with N. Miyabe) および“Postseismic Slow Vertical Displacement of Earth Crust and Isostasy”(with N. Miyabe) を発表。5月22日、地震研究所談話会で「丹後地方地殻変動」(宮部・東庄三郎と共著) および「火山の形に就て」(東と共著) を発表。5月頃から、バイオリンを水口幸麿について習うようになる。6月12日、帝国学士院で“Vertical Displacements of Sea Bed off the Coast the Tango Earthquake District”(with S. Higasi) を発表。6月19日、地震研究所談話会で「気圧

と海水面」および「地震と海底変動」を公表。7月3日、同談話会で「横圧に依る砂層の崩壊」（宮部と共著）および「島弧の形状に就て」を公表。7月12日、帝国学士院で“On a Characteristic Mode of Deformation of Sea Bed”（with S. Higasi）を公表。9月25日、地震研究所談話会で「地震史料の調査（第一報）」および「地震帯に就て」を公表。10月12日、帝国学士院で“Ignition of Gas by Spark and Its Dependency on the Nature of Spark”（with K. Yumoto）および“On the Effect of Cyclone upon Sea Level”（with S. Yamaguti）を公表。11月26日、航空学談話会で「液体に浮遊する粉末と液との相対運動に就て」（玉野と共著）を公表。

談話「ロンドン大火と東京火」、『日本消防新聞』、1月。

「日本楽器の名称と外国との関係」、『大阪朝日新聞』、1月。

「土佐の地名」、『土佐及土佐人』、1月。

詩「三毛の墓」、『渋柿』、2月。

「比較言語学に於ける統計的研究法の可能性に就て」、『思想』、3月。

「最上川象潟以後」、『渋柿』、4月。

「夏目先生の俳句と漢詩」、『漱石全集』第13巻、月報、5月。

「羽越紀行」、『渋柿』、5月。

「子規の追憶」、『日本及日本人』、9月。

「スパーク」、『東京帝国大学理学部会誌』、9月。

「ルクレチウスと科学」、岩波講座『世界思潮』、9月。

「雑感」、『理科教育』、11月。

「二科狂想行進曲」、『靈山美術』、11月。

昭和4（1929）年 52歳

3月12日、帝国学士院で“Ignition of Combustible Gases with Three-Part Spark”（with K. Yumoto and R. Yamamoto）を公表。3月19日、地震研究所で「砂層の崩壊に関する実験」（宮部と共著）を公表。4月1日、水産講習所の囑託を解かれ、新たに出来た水産試験場において物理学および海洋学に関する調査を囑託される。4月16日、地震研究所談話会で「火山の形（第二報）」を公表。5月12日、帝国学士院で“On the Effects of the Vapours of Halogen Compounds upon the Form and Structure of Long Sparks”（with U. Nakaya and R. Yamamoto）を公表。6月12日、“On the Form of Volcanos”を公表。6月17日、航空学談話会で「金属薄膜に関する二三の実験」（田中信と共著）を公表。6月18日、地震研究所談話会で「丹後震災地付近に於ける地殻の変動」（宮部と共著）を公表。7月3日、理化学研究所で脳貧血を起す。10月12日、帝国学士院で“Deformation of the Earth Crust and Topographical Features”（with N. Miyabe）を公表。10月15日、地震研究所談話会で「桜島の地形変化」（宮部と共著）および「石油の生成と火山作用」を公表。11月19日、理化学研究所学術講演会で「火山灰の接触作用」（平田森三と共著）を公表。12月17日、地震研究所談話会で「関東地方に於ける地殻変動」（宮部と共著）を公表。この頃からしきりに映画を見るようになった。

「年賀状」、『東京朝日新聞』、1月。

「化物の進化」、『改造』、1月。

『万華鏡』、鉄塔書院、4月。

「数学と語学」、『帝国大学新聞』、4月。

「藤原博士の『雲』」、『新愛知』、6月。

「験潮旅行断片」、『大阪朝日新聞』、7月。

「デパートの夏の午後」、『東京朝日新聞』、8月。

「さまよへるユダヤ人の手記より」、『思想』、9月。

「野球時代」、『帝国大学新聞』、11月。

昭和5（1953）年 53歳

1月21日、地震研究所談話会で「本邦火山活動の緯度分布に就て」および「温泉の熱に就て」を  
発表。2月12日、帝国学士院で“Crustal Disturbance in Kwanto Districts”（with N. Miyabe）および“On  
the Relation between the Divergence of Horizontal Displacements of Trigonometrical Points and the Vertical  
Displacements of the Earth Crust”を発表。2月17日、航空学談話会で「パラヂウム膜の亀裂に就て  
」（田中と共著）を発表。2月18日、地震研究所談話会で「三角点移動の意義に就て」を発表。4  
月12日、帝国学士院で“Further Studies on Periodic Columnar Vortices Produced by Convection”（with M.  
Tamano）を発表。4月15日、地震研究所談話会で「山崩れに就て（第二報）」（宮部と共著）を  
発表。6月12日、帝国学士院で“Preliminary Experiments on the Modes of Propagation of Surface  
Combustion”を発表。6月17日、地震研究所談話会で「土地の垂直運動と地形との関係」（宮部と  
共著）を発表。9月15日、正四位に叙せられる。9月16日、地震研究所談話会で「山崩れの調査（  
第三報）」（宮部と共著）を発表。10月29日、理化学研究所学術講演会で「火山灰の吸着作  
用（Ⅱ）」（平田・内ヶ崎直郎と共著）を発表。12月12日、帝国学士院で“On Luminous Phenomena  
Accompanying Earthquakes”を発表。12月16日、地震研究所談話会で「地震に伴う光の現象」を発表  
。

談話「火災研究の基本材料」、『日本消防新聞』、1月。

「二つの正月」、『文芸春秋』、2月。

「LIBER STUDIORUM」、『改造』、3月。

「高浜さんと私」、『現代日本文学全集』、月報、4月。

「地図をたどる」、『大阪朝日新聞』、7月。

「夏 暑さの過去帳（上）（下）」、『東京朝日新聞』、8月。

「映画時代」、『思想』、9月。

「震生湖より」、『渋柿』、10月。

「映画雑感（一）（二）」、『帝国大学新聞』、11～12月。

「レーリー卿（Lord Rayleigh）」、岩波講座『物理学及び化学』、12月。

「研究者の対立」、『東京朝日新聞』、12月。

談話「大地震と光り物」、『報知新聞』、12月。

昭和6（1931）年 54歳

1月15日、幸田露伴を初めて訪問。2月17日、地震研究所談話会で「三島町の被害に就て」（宮部と共著）を発表。2月18日、雑誌『科学』創刊号につき、編集主任石原純、相談にあずかる（寺田も編集者の中の一人）。3月9日、航空学談話会で「パラジウム膜の亀裂に就て（第二報）」（田中と共著）を発表。3月17日、地震研究所談話会で「島弧の曲率に就て（第二報）」および「三島町の被害に就て」を発表。4月13日、帝国学士院で“On the Curvature of Islands Arc and Its Relation to the Latitude”および“On Heterogeneous Distribution of Houses Destroyed by Earthquake”（with N. Miyabe）を発表。4月21日、地震研究所談話会で「地震と雷雨との関係」を発表。4月、服部報公会常置委員を委嘱される。5月28日、理化学研究所学術講演会で「火災の物理的研究（第一報）」（内ヶ崎と共著）および「固体の破壊に関する二三の考察」を発表。6月12日、帝国学士院で“Analogy of Crack and Electron”を発表。6月16日、地震研究所談話会で「ワレメに就て」を発表。7月7日、地震研究所談話会で「地震群に就て」を発表。8月、この頃から玉を突くようになる。9月15日、地震研究所談話会で「深川に於けるメタン瓦斯湧出地」（宮部と共著）を発表。10月15日、アーレニウス『史的に見たる科学的宇宙観の変遷』（寺田訳、岩波文庫）が出版される。11月12日、帝国学士院で“Relation between Frequencies of Earthquake and Thunderstorm”を発表。11月17日、地震研究所談話会で「三鷹菱形基線の変化の地震頻度」を発表。11月25日、理化学研究所学術講演会で「硝子板の割目（I）」（平田・山本龍三と共著）および「山林火災と不連続線」（内ヶ崎と共著）を発表。12月15日、地震研究所談話会で「三鷹菱形基線の変化と関東地方の頻度との関係（続報）」を発表。この年、しきりに連句を試みる。

「時事雑感」、『中央公論』、1月。

「火山の名に就て」、『郷土』、1月。

「女の顔」、『渋柿』、1月。

談話「地震に伴ふ光の現象」、『日本消防新聞』、1月。

「『芭蕉連句の根本解説』に就て」、『東京朝日新聞』、1月。

「曙町より」、『渋柿』、2月～1935年11月。

「連句雑俎」、『渋柿』、3～12月。

「日常身の物理的諸問題」、『科学』、4月。

「映画雑記より」、『文芸春秋』、5月。

「風呂の寒暖計」、『家庭』、6月。

「映画雑記」、『時事新報』、6月。

「青衣童女像」、『雑味』、9月。

翻訳アーレニウス『史的に見たる科学的宇宙観の変遷』、岩波書店、10月。

「量的と質的と統計的と」、『科学』、10月。

「映画雑感」、『中央公論』、10月。

「天然の芸術——「アフリカ」は語る」、『帝国大学新聞』、11月。

「カメラに掲げて」、『大阪朝日新聞』、11月。

「蓑田先生」、『東京帝国大学理学部会誌』、12月。

「こはいもの征服」、『家庭』、12月。

「ラジオ・モンタージュ」、日本放送協会『調査時報』、12月。

「青磁のモンタージュ」、『雑味』、12月。

昭和7（1932）年 55歳

1月12日、帝国学士院で“Cracks Produced on the Surface of Dielectrics by Gliding Spark”（with M. Hirata and R. Yamamoto）および“Deformation of the Rhombic Base Lines at Mitaka and Earthquakes in Kwanto”を公表。1月19日、地震研究所談話会で「地震と漁獲」（渡部哲と共著）を公表。3月12日、帝国学士院で“Earthquakes and Fisheries”を公表。5月12日、帝国学士院で“Change of Depth in the Bay of Tosa”を公表。5月17日、地震研究所談話会で「興津より串本に至る水準点検測成果」および「土佐沿岸海底の変化」を公表。5月25日、理化学研究所学術講習会で「椿の花の落ち方に就て」（内ヶ崎と共著）および「水晶玉の打撃像」（平田・山本と共著）を公表。6月6日、航空学談話会で「中空紡錘状流水水柱の生成」（田中・伊東彊自と共著）を公表。6月21日、地震研究所談話会で「半島の傾斜と地殻の剛性」（宮部と共著）および「地震の分布と観測所の分布」を公表。7月12日、帝国学士院で“Tilting and Strength of Earth's Crust”（with N. Miyabe）を公表。10月18日、地震研究所談話会で「地磁気の分布と日本の構造」を公表。11月12日、帝国学士院で“On the Result of Revision of Precise Levelling along the Pacific Coast from Okitu to Kusimoto, 1932”および“‘The Result of the Recent Revision of Precise Levelling on the Route from Tokyo to Huzimi via Takasaki and Suwa’”（with N. Miyabe）を公表。12月17日、勲二等に叙せられ瑞宝章を授けられる。12月20日、地震研究所談話会で「北上川に就て」および「地磁気の分布と日本の構造（続報）」を公表。

「音楽的映画としてのラブ・ミ・トゥナイト」、『キネマ旬報』、1月。

「読書今昔談」、『東京日日新聞』、1月。

「物理学圏外の物理的現象」、『理学界』、1月。

談話「山火事の警戒は不連続線」、『日本消防新聞』、1月。

「俳諧 二つ折」、『渋柿』、1月。

「郷土的味覚」、『郷土読本』、2月。

「映画の世界像」、『思想』、2月。

「『手首』縦横録」、『中央公論』、3月。

「映画「三文オペラ」その他」、『帝国大学新聞』、3月。

「Professor Takematu Okada」、『Geophysical Magazine』、3月。

「千本針」、『セルパン』、4月。

談話「シベリアの大山火事」、『日本消防新聞』、4月。

「俳味あるフランス映画——「自由を我等に」を見て」、『帝国大学新聞』、5月。

『続冬彦集』、岩波書店、6月。

「工学博士末広恭二君」、『科学』、6月。

「生ける人形——文楽の第一印象」、『東京朝日新聞』、6月。

談話「喫茶店に書齋を求む」、『帝国大学新聞』、6月。

「チューインガム」、『文学』、8月。

「映画芸術」、岩波講座『日本文学』、8月。

「教育映画について」、『文学』、8月。

「天文と俳句」、『俳句講座』、改造社、8月。

「烏瓜の花と蛾」、『中央公論』、10月。

「札幌まで――熊に逢はなかつた話」、『鉄塔』、11月。

「俳諧の本質的概論」、『俳句講座』第三章、改造社、11月。

「音楽的映画としての「ラヴ・ミ・トゥナイト」、『キネマ旬報』、11月。

「ステッキ」、『週刊朝日』、11月27日。

「Kasu no Simatu」、『Romazi no Nippon』、11月。

「ロプ・ノール其他」、『唯物論研究』、12月。

「夏目漱石先生の追憶」、『俳句講座』第八巻、改造社、12月。

「田丸先生の追憶」、『東京帝国大学理学部会誌』、12月。

「言葉の不思議（わらふとべらぼう）」、『鉄塔』、12月。

昭和8（1933）年 56歳

1月12日、帝国学士院で“Distribution of Terrestrial Magnetic Elements and the Structure of Earth's Crust in Japan”および“Kitakami River Plain and Its Geophysical Significance”を公表。1月17日、地震研究所談話会で「四国に於ける山崩の方向性」および「日本のゼオイドに就て」を公表。4月11日、航空評議会臨時評議員になる。4月12日、帝国学士院で“Result of the Precise Levelling along the Pacific Coast from Koti to Kagosima, 1932”を公表。5月16日、地震研究所談話会で「統計に因る地震予知の不確定度」を公表。5月25日、理化学研究所学術講演会で「墨汁皮膜の硬化に及ぼす電解質の影響」（内ヶ崎と共著）、「墨汁粒子の毛管電気現象」（山本と共著）および「藤の実の射出される物理的機構」（平田・内ヶ崎と共著）を公表。6月12日、帝国学士院で“On a Measure of Uncertainty Regarding the Prediction of Earthquake Based on Statistics”を公表。10月12日、帝国学士院で“Luminous Phenomena Accompanying Destructive Sea-Waves”を公表。11月17日、理化学研究所学術講演会で「墨汁粒子の電氣的諸性質（続報）」（山本・渡部と共著）を公表。11月21日、地震研究所談話会で「相模湾底の変化に就て」を公表。12月11日、航空学談話会で「垂直に吊された糸を熱するとき生ずる上昇力と之に及ぼす周囲の瓦斯の影響」（竹内能忠と共著）を公表。

「鐘に響る」、『応用物理』、1月。

「北氷洋の氷の破れる音」、『鉄塔』、1月。

「Image of Physical World in Cinematography」、『Scientia』、1月。

「重兵衛さんの一家」、『婦人公論』、1月。

「鉛をかじる虫」、『帝国大学新聞』、1月。

「鎖骨」、『工業大学蔵前新聞』、1月。

「ニュース映画と新聞記事」、『映画評論』、1月。

「書翰」、『アララギ』、1月。

「短歌の詩形」、『勁草』、1月。

「自然界の縞模様」、『科学』、2月。

「藤の実」、『鉄塔』、2月。

「銀座アルプス」、『中央公論』、2月。

「珈琲哲学序説」、『経済往来』、2月。

談話「不連続線と温度の注意で山火事を予防」、『報知新聞』、2月。

「空想日録」、『改造』、3月。

「地震と光り物——武者金吉著『地震に伴ふ発光現象の研究及び資料』紹介」、『東京朝日新聞』、3月。

「映画雑感」、『帝国大学新聞』、3月。

「物質群として見た動物群」、『理学界』、4月。

「病院風景」、『文学青年』、4月。

「猿の顔」、『文芸意匠』、4月。

「ラヂオ」随想、日本放送協会『調査時報』、4月。

「Opera wo kiku」、『Romazi Zidai』、4月。

「測候瑣談」、『時事新報』、4月。

「ことばの不思議 二」、『鉄塔』、4月。

「津波と人間」、『鉄塔』、5月。

「耳と目」、『映画評論』、5月。

『柿の種』、小山書店、6月。

「蒸発皿」、『中央公論』、6月。

「記録狂時代」、『東京朝日新聞』、6月。

「言葉の不思議（三）」、『鉄塔』、7月。

「感覚と科学」、『科学』、8月。

「涼味数題」、『週刊朝日』、8月。

「錯覚数題」、『中央公論』、8月。

「神話と地球物理学」、『文学』、8月。

「言葉の不思議（四）」、『鉄塔』、8月。

アンケート「最近読んだ日本の良書愚書」、『鉄塔』、8月。

「学問の自由」、『鉄塔』、9月。

「試験管」、『改造』、9月。

「軽井沢」、『経済往来』、9月。

「科学と文学」、岩波講座『世界文学』、9月。

アンケート「記・紀・万葉に於けるわが愛誦歌」、『文学』、9月。

『物質と言葉』、鉄塔書院、10月。

「科学者とあたま」、『鉄塔』、10月。

「浅間山麓より」、『週刊朝日』、10月。

「沓掛より」、『中央公論』、10月。

「二科展院展急行瞥見記」、『中央美術』、10月。

「KからQまで」、『文芸評論』、10月。

「科学的文学の一例——維納の殺人容疑者」、『東京朝日新聞』、10月。

「猿蟹合戦と桃太郎」、『文芸春秋』、11月。

「俳諧瑣談」、『洪柿』、11月。

「人魂の一つの場合」、『帝国大学新聞』、11月。

『地球物理学』、岩波書店、12月。

『蒸発皿』、岩波書店、12月。

「伊香保」、『中央公論』、12月。

「異質触媒作用」、『文芸』、12月。

昭和9（1934）年 57歳

1月9日、日本學術振興委員を委嘱され第四部常置委員会委員となる。1月12日、帝国学士院で“On Physical Properties of Chinese Black Ink”（with R. Yamamoto and T. Watanabe）を発表。1月16日、地震研究所談話会で「東北地方の地形に就て」を発表。2月12日、帝国学士院で“On a Regularity in Topographical Features of North-East Japan”を発表。2月20日、地震研究所談話会で「粉末堆層の破壊に関する実験」を発表。3月12日、帝国学士院で“On the Modes of Fracture of a Layer of Powder Mass”（with T. Watanabe）および“On the Physical Meaning of Periodic Structure in Earth’s Crust”を発表。4月17日、地震研究所談話会で「大陸で収縮する？」および「中国の地形」を発表。5月12日、帝国学士院で“Revision of Precise Levelling along R. Tenryu from Simosuwa to Kakegawa, 1934”（with N. Miyabe）および“On the Stability of Continental Crust”を発表。5月24日、理化学研究所学術講演会で「墨汁の諸性質（第三報）」（山本・渡部と共著）および「割れ目と生命」を発表。6月19日、地震研究所談話会で「日本海の深さ」を発表。7月3日、地震研究所談話会で「地殻変動と温泉」を発表。7月12日、帝国学士院で“Hot Springs and Deformation of Earth’s Crust”を発表。10月24日、水産試験場の海洋学談話会で「日本海海底の変化」を講演。11月12日、帝国学士院で“Results of Revision of Precise Levelling in Tohoku Districts”（with N. Miyabe）を発表。11月15日、理化学研究所学術講演会で「墨汁の諸性質（第四報）」（山本・渡部と共著）および「二三の生理光学的現象」（山本・渡部と共著）を発表。11月20日、地震研究所談話会で「珊瑚礁に就て」を発表。12月12日、帝国学士院で“Vertical Movement of Earth’s Crust and Growth of Coral Reef”を発表。

「初冬の日記から」、『中央公論』、1月。

「猫の穴掘り」、『大阪朝日新聞』、1月、『東京朝日新聞』、1月。

「思出草」、『東炎』、1月。

「踊る線条」、『東京朝日新聞』、1月。

「徒然草の鑑賞」、『文学』、1月。

「雑記帖より」、『文体』、2月。

「本当の旅の味「ギリシャとスカンディナヴィヤ」安倍能成氏の紀行記」、『帝国大学新聞』、2月。

「ある探偵事件」、『大阪朝日新聞』、2月。

アンケート「ドイツ芸術の独白性について」、『カスタニエン』、2月。

「変った話（四題）」、『経済往来』、3月。

「俳諧瑣談」、『俳句研究』、3月。

「学位に就て」、『改造』、4月。

「ジャーナリズム雑感」、『中央公論』、4月。

「科学に志す人へ」、『帝国大学新聞』、4月。

「『西洋拝見』を読んで」、『東京朝日新聞』、4月。

「函館の大火に就て」、『中央公論』、5月。

「マーカス・ショーとレビュー式教育」、『中央公論』、6月。

「庭の追憶」、『心境』、6月。

「映画雑記」、『キネマ旬報』、6月。

「“豆”と哲人ーピタゴラスの最期」、『東京日日新聞』、7月。

「御返事（石原純君へ）」、『立像』、7月。

「「山中常磐」の映画的手法」、『セルパン』、7月。

「夕凧と夕風」、『週刊朝日』、8月。

「鷹を貰い損なった話」、『行動』、8月。

「観点と距離」、『文芸春秋』、8月。

「喫煙四十年」、『中央公論』、8月。

「初旅」、『旅と伝説』、8月。

「雑記帖より」、『文学』、8月。

「ゴルフ随行記」、『専売協会誌』、8月。

「子規自筆の根岸地図」、『東炎』、8月。

「Rokugwatu no Hare」、『RS』、8月。

「星野温泉より」、『渋柿』、8月。

「藤棚の蔭から」、『中央公論』、9月。

「鳶と油揚」、『工業大学蔵前新聞』、9月。

「明治廿二年頃」、『俳句研究』、9月。

「映画雑感」、『文学界』、9月。

「地図を眺めて」、『東京朝日新聞』、9～10月。

「疑問と空想」、『科学知識』、10月。

「映画雑感」、『映画評論』、10月。

「室戸の奇現象」、『土陽新聞』、10月。

「小泉八雲秘稿画本『妖魔詩話』」、『帝国大学新聞』、10月。

「破片」、『中央公論』、11月。

「天災と国防」、『経済往来』、11月。

「俳句の型式と其進化」、『俳句研究』、11月。

「青楓の果実蔬菜描写」、津田青楓『線描蔬菜花卉第二画集』、11月。

アンケート「ほんとはん」、『帝国大学新聞』、11月。

『触媒』、岩波書店、12月。

「家鴨と猿」、『文学』、12月。

「鳴突き」、『野鳥』、12月。

「追憶の冬夜」、『短歌研究』、12月。

昭和10（1935）年 58歳

2月19日、地震研究所談話会で「水準線路の昇降と温泉の分布」（宮部と共著）を発表。3月12日、帝国学士院で“Hot Springs and Deformation of Earth's Crust. Part II”（with N. Miyabe）を発表。4月16日、地震研究所談話会で「コロイドと地震学（第一報）」を発表。5月23日、理化学研究所学術講演会で「割れ目と生命（第二報）」（渡部との共著）および「墨汁の諸性質（第五報）」（山本・渡部と共著）を発表。6月12日、帝国学士院で“Cataphoresis of Chinese Ink in Water Containing Deuterium Oxide”（with R. Yamamoto）および“Relation between Topography and Vertical Displacement of Earth's Crust”（with N. Miyabe）を発表。7月4日、『文学』の座談会（「日本文学に於ける和歌俳句の不滅性」）に出席。9月17日、地震研究所談話会で「浅間火山爆発実見記」を発表。10月1日、従三位に叙せられる。11月19日、理化学研究所学術講演で「墨汁の諸性質（第六報）」（山本・渡部と共著）を発表。11月、島蘭博士の診察を受ける。疼痛は身体各所に現われるようになる。12月3日、日本学術振興会第四特別委員会委員を委嘱される。12月17日、地震研究所談話会で「宮古—青森間地殻の垂直変動」（宮部と共著）を発表。12月31日、病勢次第に募り、午後零時28分死去。病は転移性骨腫瘍。

「夢判断」、『文芸春秋』、1月。

「新春偶語」、『都新聞』、1月。

「新年雑俎」、『一橋新聞』、1月。

「追憶の医師達」、『実験治療』、1月。

「西鶴と科学」、『日本文学講座』、改造社、1月。

「自由画稿」、『中央公論』、1～5月。

「Hakari no Hari」、『RS』、1月。

「相撲」、『時事新報』、1月。

「蛆の効用」、『自由画稿』、2月。

「颱風雑俎」、『思想』、2月。

「詩と官能」、『渋柿』、2月。

「鴉と唱歌」、『野鳥』、2月。

「映画雑感」、『セルパン』、2月。

「人間で描いた花模様」、『高知新聞』、2月。

「一般人の間へ」、普及講座『防災科学』、岩波書店、3月。

「最近の映画に就て——俳諧的な情味などを」、『帝国大学新聞』、4月。

「映画雑感」、『渋柿』、4月。

アンケート「古事記全歌謡の註釈と鑑賞」、『文学』、4月。

「土井八枝『土佐の方言』序文」、春陽堂、5月。

「物売りの声」、『文学』、5月。

「伯林大学（1909 - 1910）」、『輻射』、5月。

「五月の唯物観（A）——ホルモン分泌の周期」、『大阪朝日新聞』、5月。

「五月の唯物観（B）——ホルモン分泌の数式」、『大阪朝日新聞』、5月。

「清少納言の健康——五月の唯物観（C）」、『大阪朝日新聞』、5月。

「映画雑感」、『映画評論』、5月。

「箱根熱海バス紀行」、『短歌研究』、6月。

「随筆難」、『経済往来』、6月。

「映画雑感」、『渋柿』、6月。

「『漱石襟記』——豊隆の新著について」、『帝国大学新聞』、6月。

「Neko sanbiki」、『RS』、6月。

「『万華鏡』再刊添え書」、岩波書店、6月。

「『物質と言葉』再刊添え書」、岩波書店、6月。

『蛍光板』、岩波書店、7月。

「B教授の死」、『文学』、7月。

「災難雑考」、『中央公論』、7月。

「僕流の見方」、『映画と演芸』、7月。

「海水浴」、『文芸春秋』、8月。

「糸車」、『文学』、8月。

「映画と生理」、『セルパン』、8月。

「映画雑感」、『渋柿』、8月。

「静岡地震被害見学記」、『婦人之友』、9月。

「高原」、『家庭』、9月。

「小浅間」、『東京朝日新聞』、9月。

アンケート「ローマ字綴方に関する諸家の意見」、『言語問題』、9月。

「映画雑感」、『渋柿』、10月。

「雨の上高地」、『登山とスキー』、10月。

「日本人の自然観」、岩波講座『東洋思潮』、10月。

「俳句の精神」、『俳句作法講座』、改造社、10月。

「小爆発二件」、『文学』、11月。

「三斜晶系」、『中央公論』、11月。

「埋もれた漱石伝記資料」、『思想』、11月。

## 寺田寅彦年表

<http://p.booklog.jp/book/83138>

著者：荒木優太

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/arishima-takeo/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/83138>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/83138>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ